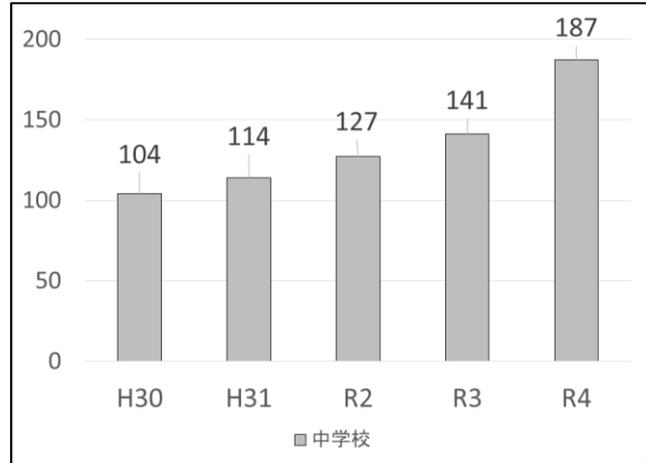
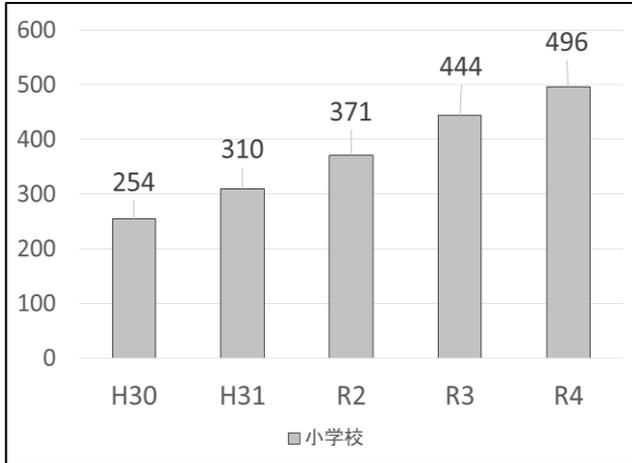


鈴鹿市立小中学校における特別支援学級在籍児童生徒数の状況

1 平成 30 年度～令和 3 年度及び令和 4 年度（見込み）における特別支援学級在籍児童生徒数



2 令和 3 年度～4 年度における特別支援学級在籍児童生徒数の推移

	R3	R4	R3→R4 追跡前年比	R3→R4 学年人数比較
6年生	76	69	1人増	7人減
5年生	68	107	16人増	39人増
4年生	91	87	13人増	4人減
3年生	74	78	12人増	4人増
2年生	66	81	12人増	15人増
1年生	69	74	-	5人増
小学校計	444	496	-	-

	R3	R4	R3→R4 追跡前年比	R3→R4 学年人数比較
3年生	37	51	3人増	14人増
2年生	48	59	3人増	11人増
1年生	56	77	-	21人増
中学校計	141	187	-	-

3 令和 3 年度 本市及び近隣 4 市の

特別支援学級在籍児童生徒数

R3	特別支援学級 児童生徒数(人)	
	小学校	中学校
いなべ市	107	68
亀山市	110	50
桑名市	361	128
四日市市	431	194
鈴鹿市	444	141

4 特別支援学級在籍児童生徒数の

増加の要因

- 5歳児健診が始まり、その後、フォローの充実を図った。また、子どもたちへ早期からの適切な支援が行われるようになった。その結果、保護者の特別支援教育への理解が深まり、特別支援学級在籍児童生徒数の増加につながった。
- 特別支援教育に関する教員の意識が高くなり、通常学級で困り感をもつ子どもを見出し、特別支援教育コーディネーターと連携し、子どもにとってよりよい学習環境を保護者と考えることが増えてきた。その結果、進級時に、特別支援学級を選択する保護者が増えてきた。